

彦根市子ども読書活動推進計画（第4次計画） 概要版

第1章 第4次計画の策定にあたって

●計画策定の趣旨

○子どもの読書活動推進の意義

- ・読書は、想像力を高め、豊かな感性や情緒を育む「生きる力」を養う教育の基盤となる活動である。
- ・発達段階に合わせた読書活動は、子どもの成長にとって大切なものである。
- ・SNSや生成AIなどの情報通信技術の急速な発展、1人1台端末の整備やスマートフォンの普及により、社会の情報化や生活の多様化等が進み、読書に関する環境は大きく変化している。
- ・すべての子どもがあらゆる機会と場所において楽しみながら主体的に読書活動を行うことができるようするための読書環境の充実が必要である。

●計画期間

- ・令和8年度（2026年度）から概ね5か年

●第3次計画期間中の成果と課題

【課題】

- ・事業の廃止等により、子育て講座の回数が減少した。
- ・保護者や地域ボランティアとの連携。
- ・学校の授業時間以外に、平日の1日当たり読書を全くしない児童生徒の割合が、あまり減少しなかった。

【成果】

- ・コロナ禍以降、園や子育て支援センターでは、職員が積極的に読み聞かせ等を実施している。
- ・小・中学校に読書活動支援員が配置（週1日程度）され、学校図書館や授業の運営の補助を行うことで、学校図書館活用が進みつつある。
- ・図書館における児童図書の間貸出冊数は増加傾向にある。

第2章 計画の基本的な考え方

基本目標：読書の楽しさを体感し、すすんで本に親しむひこねっこの育成

基本方針

- (1) すべての子どもが読書の楽しさを体感できる「としょかん」の充実
- (2) 子どもや子育て世代に寄り添う「としょかん」の充実
- (3) 様々な組織や団体の連携による「としょかん」の充実

※「としょかん」：子どもたちにとっての「本に親しむ環境」となること。



第3章 子ども読書活動推進計画のための施策

(1) すべての子どもが読書の楽しさを体感できる「としょかん」の充実

- ★すべての子どもが進んで本に親しむ「としょかん」づくり（学校・幼稚園・保育所等）
- ・学校・幼稚園・保育所等、放課後児童クラブにおける本との出会いや触れ合う機会の充実
- ・紙の書籍と電子書籍のよさを生かした取組の推進
- ・発達段階に応じた絵本コーナーや学校図書館の充実
- ・子どもに関わる人々への読書推進に関わる啓発

(2) 子どもや子育て世代に寄り添う「としょかん」の充実

- ★子どもも大人も安心して過ごせる「としょかん」づくり（家庭・地域等）
- ・乳幼児期における読書の重要性の保護者への啓発
- ・乳幼児とその保護者が安心して本に親しむことができる場の設定
- ・図書館、公民館、地域子育て支援施設における読書活動の推進

(3) 様々な組織や団体の連携による「としょかん」の充実

- ★組織や団体がつながる「としょかん」づくり
- ・学校・幼稚園・保育所等、家庭、地域、ボランティア団体、企業等様々な組織や団体の連携
- ・定期的な情報発信による市民への周知

第4章 計画の推進

●啓発・広報等の推進

- ・市の広報紙やホームページでの周知
- ・「子ども読書の日」等と関連付けた取組の推進

●計画の推進方法

- ・「子ども読書活動推進計画連絡会議」の開催

第5章 指標の設定

- ①地域子育て支援センターにおける「絵本の読み聞かせ」に関する子育て講座の参加組数
- ②幼稚園・保育所等の5歳児に対して、保育者が「読み聞かせ」を行っている1週間あたりの回数
- ③学校の授業時間以外に、平日の1日当たり、読書を全くしない児童生徒の割合
- ④子どもの多様なニーズに応じた環境整備がされている学校図書館の割合
- ⑤図書館における児童図書の年間貸出冊数

【参考資料】



出典：『第5次滋養果子ども読書活動推進計画～滋養まるごと「こども としょかん」を目指して～』